

2026 年度 事業計画

1、はじめに

(1) 事業開始にあたって

MBT (Medicine-Based Town 医学を基礎とするまちづくり) とは、「住居医学」と「MBE」(Medicine-Based Engineering 医学を基礎とする工学・産業創生)の体系の統合であり、超高齢社会に対応したまちづくりを行うと共に、医学の知識を基に新産業創生および地方創生、更には社会貢献活動を行うことを目的としている。

(2) 本法人の事業価値

1) MBE : Medicine-Based Engineering 医学を基礎とする産業創生・新製品開発

すべての産業に医学の光をあて、介護・見守り・交通・製薬・生活支援・エネルギー・補完代替医療等々、超高齢社会における産業全体に関わり、連携し自由闊達な活動を展開することで、あらゆる産業に医学の叡智を注入しながら、異分野連携も含めた産業創生や新製品開発に取り組む。

2) MBT : Medicine-Based Town 医学を基礎とするまちづくり

新産業創生・新製品開発成果の活用を含め、医学による価値を付与した超高齢社会に対応した新たな「まちづくり」を、企業や自治体等の連携で提案・実行する。

3) 医学を基礎とした社会貢献

直近では、希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者の苦境の社会課題に目を向け、医学の専門知識を活かし、社会生活や心身の安心・安全の確保や啓発に向けた活動を推進する。

以上の事業価値を見出し、超高齢社会を乗り越え、産業創生、地方創生、社会貢献を果たすために、2026年度の具体的な事業活動については、次に掲げるものを中心に取り組む。

2、具体的事業活動の概要

(1) MBT 事業活動

- ・2026年度は、2016年のMBTコンソーシアム設立から丸10年が経過し、新たな10年に向けてのスタートの年となる。
- ・この10年間で、会員数はコロナ禍の時期にコロナ感染対策技術に関わる企業の入会が急増し230社に近い時期もあったが、その特異時期を過ぎてもあらゆる分野から約150社が参加している。
- ・そして、この10年間にMBT事業活動の主要な取り組みとして、①産業創生・新製品開発、②まちづくり、③社会貢献活動、を中心に進めてきた。
- ①産業創生・新製品開発では、会員企業と奈良医大のシーズ・ニーズマッチング活動で10件を超えるMBTロゴマーク付与商品が上市された。

②まちづくりでは、電力メータデータ分析によるライフスタイルセンシングを活用した未病期健康見守りの取組みが、全国自治体の50拠点近くで実証実験や共同研究が進められ今後の社会インフラの一つとして期待が高まっている。

③社会貢献活動では、コロナ禍の時期には「MBT コロナ克服キャンペーン」で“三感染ルート遮断”を基本に感染対策相談やアドバイスを無料で進めてきた。また、2021年にスタートした「MBT 難病克服キャンペーン」では**MBT 難病克服支援 WEB セミナー**を10回、**MBT みんなで守るいのちの映画祭**を5回実施し、前者は毎回約300人、後者も約400人が参加するほどに知名度も高まり、社会貢献効果を上げつつある。

- ・2026年度のスタートに当たり、MBTを取り巻く環境を見渡すと、多くの技術や事業分野でAIの著しい進歩による新たな産業革命が起こりつつある。医学を基礎とするMBT活動も今後はAIも意識せざるを得ない状況と考えられる。
- ・以上、これまでの取組み実績や今後の状況を鑑み、上記①②③の活動を継続しながら新たな活動も取り入れて以下に示す2026年度MBT活動を進める。

1) MBT コンソーシアム会員を対象にした医学相談、会員全体会議

- ・積極的な医学相談を実施の結果、奈良医大等の共同研究テーマへと発展しMBT ロゴマーク付与製品につながった開発成果事例を会員企業にPRしながら、多くの会員企業から新製品開発に関わる積極的な医学相談が沸き上がるような取り組みに注力する。
- ・コロナ禍以前は対面参加の会員全体会議で、MBT活動情報共有、会員間交流や医学相談の場設定を行っていたが、コロナ禍以降はオンライン会議が主流となってきたことで以前のような取組みは現実的に困難となっている。
この状況を踏まえ、今後はオンライン会議を活用して会員間の情報共有や交流につながる取組を検討する。

2) 産業創生（新製品開発）・まちづくり・社会貢献に向けての部会・分科会活動

- ・これまでは11部会、14分科会の活動で、奈良医大の医師や産学連携コーディネータと会員企業との議論を通して、産業創生テーマ発掘や新製品開発、エビデンス医学評価、事業化検討等の支援活動を行ってきた。しかしながら時の流れと共にタイムリー性に欠ける、また目的を達成したと考えられる部会については統廃合を考える。
具体的には、i) 万博テーマ部会の廃止、ii) ビッグデータ活用部会はMBT研究所産学連携部会に統合、iii) 感染症部会は廃止、として、表1に示すように2026年度は8部会、9分科会で活動をスタートする。
- ・また期間中に、医学とAIを連携活用した部会等の設立を検討する。
- ・これらの部会・分科会活動の進展に向け、必要と判断される案件についてMBT コンソーシアムの予算面からも活動を支援する。

表 1. MBT コンソーシアム部会・分科会活動

MBT コンソーシアム部会活動		(2026 年 4 月現在)	
No	部会名	分科会名	活動概要
1	産学金連携・フリーディスカッション部会		奈良医大と会員企業とのシーズ・ニーズマッチング
2	抗老化部会	サプリメント・食品分科会	オートファジー活性化評価によるサプリメント、食品、化粧品開発など
		健康年齢計測手法分科会	ヒトの健康年齢評価手法、機器開発
		抗老化手段分科会	五感の老化、劣化等をカバーする機器開発（例）難聴：軟骨伝導イヤホン
3	通信部会		次世代通信応用システム実用化
4	スマートコミュニティ部会		再生エネルギー活用による新システム創出、環境改善
5	医療福祉環境におけるアート研究部会		健康とウェルビーイング向上に有用なアートを研究
6	MBT 研究所産学連携部会		ライフスタイルセンシング健康見守り
7	難病克服部会	普及分科会	ロゴマーク付き協賛商品販売による普及活動
		セミナー分科会	難病に関わる現状の啓発活動
		映画分科会	映像による難病の啓発活動
8	在宅遠隔医療部会	全国対応分科会	富裕層を対象にした全国ネットワーク対応型MBTモデルの検討
		地域支援分科会	奈良県中和地域の在宅医療支援を通して機材やサービス検討
		在宅看護分科会	へき地を支える在宅医療ケアを支えるハード、サービス検討

以下に、部会の 2026 年度活動計画概要を示す。

① No. 1 産学金連携・フリーディスカッション部会

- ・MBT 活動の狙いでもある産業創生をめざして、奈良医大の研究者が保有する研究成果や現場ニーズを聞き取り、会員企業への呼びかけやマッチングに関わる打ち合わせの場の設定と議論を支援する。また、その場で行った課題や調査のフォロー、新たな議論の場の設定を行う。
- ・スタートアップ・エコシステム共創プログラムによる支援を活用し、奈良医大発ベンチャーの創出・展開を支援する。

② No. 2 抗老化部会

- ・2024 年 4 月に開催支援を行った「オートファジー・抗老化研究センター（センター長：中村修平 生化学講座教授）」設立記念シンポジウムに参加した 60 社の企業は本研究に何らかの深い関心を示す企業との認識から、引き続き参加企業に MBT コンソーシアム入会勧誘や、大学との共同研究やマッチングの呼びかけを継続する。

- ・中村修平教授の講演や発表の機会情報を、MBT ニュースレター、ホームページなどを通じて会員や関係企業に、研究の進捗や動向をお知らせする。
- ③ No. 3 通信部会
- ・通信部会には、先進的通信技術を保有する、大学では奈良先端科学技術大学院大学（以降 NAIST）、通信事業者、医療事業者、ヘルスケア事業者が参加しており、これまで医学と通信技術活用をテーマに、新事業開発や社会貢献活動の議論を積み重ねてきた。
 - ・その議論の1つの出口が、わが国で頻発する大災害を想定した防災・減災、災害現場の医療活動への貢献、であり、その議論の成果を、2019年以來、奈良県が地域で実施する防災総合訓練に計6回参加して展示や具体的デモでPRしてきた。
 - ・2026年も、これまで参加を続けてきた奈良県防災総合訓練（2026年10月25（日）、於：奈良県川西町で実施予定）に新たに提案できる防災・災害対策手段の検討を行い展示参加する。
- ④ No. 4 スマートコミュニティ部会
- ・スマートコミュニティの基礎知識の醸成、先進事例の紹介、先進導入施設の見学会等を通じて、具体的な事業モデルの検討に繋げる。また、他の部会とも連携を図り、エネルギーや通信インフラ等の構築を支援する。
 - ・2026年10月頃に「スマートコミュニティ先進事例の見学会」を開催予定。
- ⑤ No. 5 医療福祉環境におけるアート研究部会
- ・2026年度は、2025年度に構築したネットワークと得られた知見を基盤に、医療・福祉施設・企業等でのアート導入を実証段階へ進める。展示、ワークショップ、アートルームを組み合わせたプログラムを複数展開する。アンケートや行動観察などを通じて心理的・環境的效果を把握し、エビデンスに基づく導入モデルの整理を目指す。また、国内外アーティストとの共同企画を継続し、医療空間の質向上と地域の文化的価値向上の両面から、持続可能なアート活用の仕組みづくりを進める。さらに、建築・医療・福祉の専門家との連携を深め、空間デザインとアートを統合した提案を検討する。
- ⑥ No. 6 MBT 研究所産学連携部会（MBT まちづくり）
- ・電力データセンシングで家庭内の家電機器の使用状況から、素の在宅者のライフスタイルを分析し、遠隔からでも健康異常の発見ができるライフスタイルセンシングの精度アップや完成度アップを目指し、地域ごとのデータベースを、全国の地方自治体や企業と連携して実証実験、共同研究の充実を支援する。
- ⑦ No. 7 難病克服部会（MBT 社会貢献）
- ・希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者の苦境を多くの人に理解いただく啓発活動として「難病克服キャンペーン」を社会貢献活動の一環で引き続き実施する。
 - ・具体的には、以下の3つの取り組みを継続して実施する。
 - i) 協賛企業の募集・・・キャンペーンの趣旨に賛同して、協賛キャンペーンロゴマークを自社商品に印刷やシール貼りする、またホームページなどでもキャンペーンをPRし支援、等の協賛活動企業を募集（費用負担は発生しない）する。
（2025年度末時点で44社・団体）
 - ii) 難病克服支援WEBセミナーの開催・・・難病に関わる研究者・医療介護者や患者

支援者の活動を多くの方にお知らせし難病への理解を深めていただく「MBT 難病克服支援 WEB セミナー」を年2回（9月、3月ごろ）に実施する。開催終了時に参加者アンケートを実施し、講演希望テーマを把握し充実した内容を目指す。

- iii) 難病克服支援第6回 MBT みんなで守るいのちの映画祭（MBT いのちの映画祭）の開催・・・「みんなで守るいのち」をテーマに短編映画作品を募集し、映像を通して難病理解を深めてもらい患者や関係者を勇気づける映画祭を、第6回目も東京で開催を予定する（2027年1月23日（土）、日経ホール）。また、これまでの5回の映画祭での入賞作品を、難病克服キャンペーンの趣旨に協賛して行われる全国各地域の映画祭などでも上映し、啓発活動を展開する。2026年度はけいはんな地域に加えNPO 法人東京難病団体連絡協議会でも計画する。知名度の高まりとともに海外からの作品応募も増えつつあり、また映画祭の実施時間の長さ等、課題指摘もあり運営の方法についても検討する。

⑧ No. 8 在宅遠隔医療部会

- ・在宅看護の現場状況理解を進め、看護や介護における必要な機材の発掘などで会員企業参加の可能性を検討する。また、奈良医大看護学科が実施する「わい和いNARA 在宅サポート研究会」と連携し支援する。

3) その他の活動

① 経団連が主催する「地域協創アクションプログラム」に参加

本プログラムは、地域経済の持続可能な活性化に向けて様々な主体間での地域協創が必要として、経団連が地方創生の実現に向けた取り組み方針を示し、それに基づく様々な連携パートナーづくりを支援するものである。その中には10項目のプログラムが示され、その1つの「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」テーマに、奈良県立医科大学とMBT コンソーシアムが連携先として参加している。医産連携による日本経済再生、自治体連携による地域活性化・地方創生、難病克服キャンペーン、在宅遠隔医療などで経団連会員との取り組みを提案する。

② 奈良医大発ベンチャー起業伴走支援

奈良医大の研究者に対する大学運営方針として、奈良医大の研究成果を論文に仕上げること及び知財出願のみならず、“アントレプレナーシップをもって社会に貢献する奈良医大発ベンチャーによる研究成果の事業化の勧め”が引き続き示されている。

この運営方針は奈良医大と連携して“医学を基礎とした産業創生”を謳うMBT コンソーシアム活動の狙いとも符合するので、奈良医大発ベンチャーの起業計画にも参画しその事業性を見極める伴走支援を行う。そして、1ベンチャー当たり30万円を上限として出資又は寄附を行う。また、奈良医大の研究テーマ等の情報から将来のスタートアップ候補テーマの発掘支援にも参加する。

③ MBT ロゴマーク付与

MBTの活動理念を体し、エビデンスを有して医学的に正しいことが確認され、大きな社会貢献が期待される会員企業の製品やサービスに対して、申請書に基づき第三者からなる審査委員会の審査を経て、



MBT ロゴマーク（右図）付与を承認する取り組みを継続実施する。
 ロゴマーク使用実施契約において、使用実施料についても2者間協議で料率等を検討する。

以下の表のように現在のMBT ロゴマーク付与案件は下表で示すように20件であり、2026年度の進捗を見守りMBT ロゴマーク付与活動を継続する。

<参考：これまでMBTロゴマークを付与した案件一覧（19社20件）>

MBTロゴマーク使用許諾一覧（2025年7月3日現在）					
通番	令和	月	日	会社名	該当商品
1	1	6	1	昭和西川株式会社	～耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス
2	3	2	18	大和リース株式会社	MBT感染症外来ユニット
3	3	2	5	モード・ユニット工房株式会社	術中運動誘発電位（MEP）モニタリングに対応した弾性ストッキング
4	3	2	5	株式会社ケアコム	波形連携ナースコールシステム（SafetyNet/MBT）
5	3	2	18	レック株式会社	アルコールジェル手指消毒剤
6	3	2	18	レック株式会社	アルコール配合ウエットシート
7	3	3	8	ユーハ味覚糖株式会社	柿渋を使用したキャンディ
8	3	3	8	カバヤ食品株式会社 ※	柿渋を使用したキャンディ
9	3	3	8	カンロ株式会社	柿渋を使用したキャンディ
10	3	5	10	春日井製菓株式会社 ※	柿渋を使用したキャンディ
11	3	5	25	株式会社奈良ホテル	New Normal Party Plan
12	3	6	25	グラストップ株式会社	ガラスコーティング剤「GT-Aa系」
13	3	7	18	やまと真空工業株式会社	銅合金応用商品（マスク&仕切り板）
14	3	7	26	株式会社フジ医療器 ※	トレビ・クリアゼロ（Fwo-3）
15	3	7	26	株式会社オーク製作所 ※	スマートエキシマランプによるオゾン発生器
16	3	8	3	有限会社サンスバル	バスター 8 10ppm 他4点
17	3	12	22	ゼノン株式会社	ZENON 特殊アルカリ電解水（pH12.7）
18	4	8	2	株式会社イムラ	奈良県吉野郡川上村の吉野杉を使った内装材および構造材の一般販売
19	5	1	26	株式会社三笠	手指機能強化手袋
20	7	7	3	株式会社タカギ	浮腫用ふくらはぎサポーター

※はMBTコンソーシアム退会につき、MBTロゴマーク使用は無効

（2）MBT 広報宣伝活動

1) 各種の催しや展示会への参加

2025年度は、

- ① 8月23日～24日、「医療モビリティ博2025 in 愛知」
 主催：「医療モビリティ博2025 in 愛知」実行委員会、場所：愛・地球博記念公園
- ② 9月16日～17日、「Tech Osaka Summit 2025」
 主催：大阪市他、場所：グランフロント大阪
- ③ 10月3日、展示、「日本女性会議2025 橿原」
 主催：日本女性会議、場所：橿原文化会館
- ④ 11月26日～27日、展示、「2025“よい仕事おこし”フェア」
 主催：“よい仕事おこし”フェア 実行委員会、場所：東京ビッグサイト

など、多くの催しや展示会に参加しMBT活動をPRした。

2026年度も積極的に催しや展示会に参加する。

2) 「MBT ニュースレター」の発行

MBT の種々イベント、会員会議、部会や分科会の活動、等々の諸活動について、タイムリーな情報をニュースレターとしてまとめ、MBT コンソーシアム会員や奈良医大教職員、更にはMBT の活動に深い関心を持つ一般人の方々にも、メールや印刷配布し、ホームページ掲載も行う。

3) ジャーナル「MBT CONSORTIUM」の発行

「MBT ニュースレター」で紹介した情報の集約や、MBT 活動の特集記事など、MBT 活動に関わる関係諸情報などを冊子にまとめ、会員のみならず国内外の関係者に配布広報し、MBT 活動の理解を深めていただくこと、更には活動参加を呼び掛けることを狙いに、年2回 (Vol. 19, Vol. 20) の発刊を予定する。

4) イベント等に対応した広告の実施

MBT 活動で実施のイベントにおいて、MBT の活動の狙いや取り組み内容を、一般の皆様、さらには首都圏の官庁関係者や企業人などを対象に、費用対広告効果を見極めながら、新聞広告、SNS (X (旧 Twitter)、Facebook、Instagram 等の活用) 広告を実施する。また、活動の動画情報をホームページやYouTube にアップし紹介する。

5) その他、広報活動

MBT の活動が、地域にとどまらず全国レベルで知名度や活動範囲を広めていくことを狙いに、MBT 紹介資料や入会案内パンフレットを活用して会員の新規入会に向けた広報活動を実施する。

(3) MBT 運営 (奈良医大と連携し、本法人の事業運営を行う活動を含む)

1) 奈良医大への委託研究

MBT 活動の基礎となる種々研究、部会活動や個々の会員からの医学知識を必要とする相談対応への協力などを MBT 研究所他に委託する。

2) 奈良医大との共同事業活動

奈良医大と本法人の双方に共通の利益をもたらす広報やイベントなどの諸活動等を実施する。

<参考：2025 年度共同事業活動>

2025/5、11 奈良医大医学科同窓会へ MBT ジャーナル Vol. 16、17 配布

2025/9、2026/1 MBT 難病克服支援 WEB セミナー (2 回実施分)

2026/1 難病克服支援第 5 回 MBT みんなで守るいのちの映画祭

3) MBT の仲間づくり、輪の拡大

MBT 活動を国内外に広くお知らせし、活動内容の理解を得て認知度を上げることが、MBT の活動拡大や目的達成に繋がる。その取り組みとして、

- ① 産学連携活動、協賛企業募集活動等を通して会員数拡大を図る。
- ② 大きな社会貢献活動実施組織と連携して活動の輪を拡大する。

2026 年度収支予算計画

単位：千円

収入			支出		
科目	明細	2026年度 予算案	科目	明細	金額
繰越金		9,500	広告宣伝活動費	ジャーナル(年2回) その他広告 (SNS他)	150 500 650
会費収入	140 口×5万円	7,000	イベント費	会議費 (ZOOM契約、会場費他) 各種展示会参加費 部会・分科会活動費 オープンミーティング 難病WEBセミナー MBT映画祭 MBT映画上映会 (けいはんな等) 新規活動予備費	150 500 200 400 750 5,600 400 100 8,100
事業補助収入		3,925	事業運営費	奈良医大研究委託費 奈良医大施設借受費 通信費・郵送費 商標出願・登録費 ロゴマーク審査謝金 顧問報酬・交通費 事務局人件費 ベンチャー出資費 (30万円×1社) 消耗品費	500 70 70 70 30 200 3,100 300 200 4,540
雑収入	ロゴマーク使用料	250	次年度繰越		7,385
合計		20,675	合計		20,675

奈良医大と
共同折半事業

2. その他

(1) フリーディスカッション

→MBT コンソーシアムの発展に向けて

(2) 事務局連絡

1) 今後のMBT コンソーシアム理事会&総会予定

① 2026年5月中旬 2026年度第1回理事会 (WEB形式)

(議案)

- 1) 2025年度事業活動報告
- 2) 2025年度決算報告
- 3) 2026年度理事会役員
- 4) 2026年度総会議案の確認
 - ・2025年度事業活動報告
 - ・2025年度決算報告
 - ・2026年度事業計画
 - ・2026年度収支予算計画
 - ・2026年度役員承認
- 5) その他

② 2026年6月初旬 2026年度定時総会 (電子会議)

以上